

【目次】 天目茶碗と日中茶文化研究 ―中国からの茶文化伝播と日本での展開―

序論 一頁

第一章 中国から日本へ伝えられた茶文化とその展開 五頁

第一節 薬用の茶と嗜好品の茶 七頁

一、『中葯大辞典』にみる「茶」

二、最古の薬書『神農本草経』と茶

三、薬用の茶と嗜好品の茶の関係

まとめ

第二節 中国から日本へ請来された三種の喫茶法 二七頁

1 唐・宋・明代における中国での喫茶の状況 二九頁

一、中国唐代に始まる喫茶と茶文化

二、中国喫茶資料にみる喫茶

2 日本へ請来された三種の喫茶法とその展開 四四頁

一、唐・宋・明代における茶文化の伝来

二、日本で展開した茶文化――茶の湯（茶道）と煎茶文化（煎茶道）

三、煎茶の語義について

四、点茶と煎茶を楽しんでいた豊臣秀吉

五、禅宗寺院における喫茶の実態

3 三種の喫茶法の呼称について 六三頁

第二章 天目茶碗考 …………… 八一頁

- 一、三種の喫茶法の呼称——従来説と訂正説
 - 二、従来説が見直しを求められている理由
 - 三、日中における喫茶用語の語義の違い
 - 四、三種の喫茶法の呼称に関する考察
 - 五、『日本薬局方』の製剤規定の呼称
 - 六、今後の喫茶研究と三種の喫茶法の呼称に関する検討
- まとめ

第一節 点茶法の茶と天目茶碗——中国と日本における碗類使用状況 …………… 八四頁

はじめに

- 一、天目茶碗の特徴
 - (一) 外見上の特徴
 - (二) 用法上の特徴
- 二、中国における点茶法の興隆と終焉
 - (一) 点茶法と茶筴
 - (二) 点茶法と燴蓋
 - (三) 宋代の白い茶
 - (四) 天目茶碗が中国で流行した理由——釉薬と材質
 - (五) 点茶法が廃れた背景
- 三、日本における天目茶碗の状況
- 四、茶の湯で使われる碗類
 - (一) 唐物・高麗物・和物
 - (二) 和物天目の扱い
 - (三) 唐物の磁器茶碗（青磁、白磁）の扱い
 - (四) 碗類の選択基準——①形状（なり） ②大きさ（ころ） ③手どり
- 五、唐物天目茶碗と黒楽茶碗

六、唐物茶入・高麗茶碗と天目茶碗

まとめ

第二節

『君台観左右帳記』からみる天目茶碗の産地と種類―「建盞」と「天目」…………… 一一二頁

一、『君台観左右帳記』とは

二、天目茶碗の産地と種類

(一) 建窯 ①曜変②油滴③兔毫盞④烏盞 (二) 吉州窯 ⑤鼈盞 ⑥能皮盞

(三) 茶洋窯 ⑦灰かつぎ (四) その他

三、『君台観左右帳記』と『山上宗二記』にみる「建盞」と「天目」

まとめ

第三節

十六世紀の茶会記にみる天目茶碗の状況 …………… 一五一頁

はじめに

一、茶会記と天目茶碗

二、十六世紀の茶書と、諸流に伝わる天目茶碗の点前

三、『松屋会記』と『天王寺屋会記』における茶碗類(天目を含む)の使用状況

四、『宗湛日記』

五、十六世紀の茶会記と、十七世紀の『草人木』

まとめ

第四節

「天目」の由来再考―「天目」の碗名が使われ始めた時期とその背景について…………… 一九一頁

はじめに

一、「天目」の由来に関する先行研究

二、問題の所在と本稿の目的

三、天目の由来と中峰明本

四、仏教僧の留学状況

五、中峰明本とは

六、日本における中峰明本の影響

七、日本における、西の天目山と東の天目山

八、墨蹟研究と禅宗史研究

まとめ

第五節 「天目」と「茶わん」の関係 …………… 二三一頁

一、『君台観左右帳記』にみる天目茶碗（土之物）と唐物青白磁の茶碗（茶垵物）

二、『山上宗二記』にみる「天目之事」と「茶碗之事」

三、『君台観左右帳記』と『山上宗二記』の比較

四、茶の湯資料にみる「天目」と「茶碗」の関係

第三章 日中茶文化の諸論点 …………… 二四一頁

第一節 平重盛伝来の箱書をもつ内金張茶碗（射和文庫蔵）について …………… 二四三頁

——唐物天目茶碗のような外観をした、金属製茶碗の調査——
はじめに

一、竹川竹斎と射和文庫

二、箱書に関する考察

（一）平重盛が天目茶碗を使っていた可能性 （二）〈蓋表〉撰州一ノ谷御所

（三）平重盛に関する伝承(1)馬蝗絆 (2)金渡の墨蹟 （四）箱書に名前が挙げられた人々（重盛以降）

三、茶碗現物の調査

	(一) 組成分析検査	(二) 茶碗の観察と実測図	(三) 作製法に関する考察
	まとめ		
第二節	青磁茶碗「馬蝗絆」の語義について	……	二七八頁
	はじめに		
	一、問題の所在——馬蝗Ⅱイナゴ説に対する疑問		
	二、伊藤東涯『馬蝗絆茶甌記』		
	三、二つの馬蝗絆とその伝来		
	四、馬蝗（馬蟻、螞蟻）の語義		
	まとめ		
第三節	岡倉天心はなぜ茶の湯を道教にたとえたのか	……	二八五頁
	はじめに		
	一、道教（タオイイズム Taoism）とは		
	二、日本に伝来した仏教と道教		
	三、岡倉天心『The Book of Tea（茶の本）』（一九〇六）		
	四、岡倉天心が学んだ茶の湯と近代教寄者		
	五、茶の湯とは		
	六、天心が「道教」の語を使った理由		
	七、茶の湯の根底に流れている思想		
	八、「芸能」と「道教」		
	まとめ		

結論	……	三一五頁
----	----	------